

超小型衛星の 作動実験成功 大 樹

東海大学生らロケット打ち上げ

【大樹】東海大学工学部航空宇宙学科の学生らは7日午後、町多目的航空公園(町美成)付近の原野でハイブリッドロケットの打ち上げ実験を行った。自作ロケットは高度約500メートル付近まで上昇し、機体から超小型模擬衛星(CANSAT)を放出するなど成功した。

同大の打ち上げ実験は2004年から毎年この時期に大樹町で実施。今

回でも回目となった。約30人が3日に来町し、準備を行ってきた。今回の実験は、GPS(全地球測位システム)などを搭載したCANSATが自律制御で発射点近くまで戻って来るかを確認することが目的。火薬を用いず、固体燃



勢いよく打ち上げられる東海大学の学生らが自作したロケット(7日午後2時6分、山下僚撮影)

料と液体酸化剤の燃焼を推進力にするハイブリッドロケットで、全長約2メートル、重さ約11キロ。午後2時すぎに勢いよく飛び出したロケットの打ち上げ実験は成功し、学生実験責任者の小川厚さん(3年)は「成功してほっとしている。大学でデータを詳細に解析したい」と話していた。

打ち上げ実験は9日にも行われる予定。(北雅貴)